

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490500057
法人名	医療法人小寺会
事業所名	グループホーム鶴見の太陽
訪問調査日	平成20年 3月24日
評価確定日	平成20年 6月 5日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4490500057		
法人名	医療法人 小寺会		
事業所名	グループホーム鶴見の太陽		
所在地	大分県佐伯市鶴見大字沖松浦51番 (電話)0972-33-1581		
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 24 日	評価確定日	平成20年 6 月 5日

【情報提供票より】(平成 20 年 3 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,600 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	2 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小寺会 佐伯中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 鶴見の太陽の名のごとく、全ての部屋の採光を工夫しており明るく清潔である。
2. 立地場所は住宅街の中にあり、地域住民との交流もよくできている。
3. 複合施設のため、ボランティアの慰問も多く色々なイベントが開催されている。
また、リハビリ器具の使用ができることにより利用者には楽しみや刺激のある時間を
持つことができる。
4. 運営者の考えとしてホーム内だけで過ごす事のないよう、1日1回は外気に触れるよ
う一人ひとりの要望に応じた散歩を行っている。また、催事が行われる公共施設が近
くにあり、スーパーも近い等、散歩には適した環境である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が始めての外部評価受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で項目ごとに分けて記入し管理者がまとめ、再検討を し自己評価票を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 東南部包括支援センター職員、米水津地区と鶴見地区の家族代表、区長 など地域住民代表や利用者代表が参加して、運営状況、推進委員の役割、 今後の計画等について活発な意見交換を行っている。また、今後は民生児 童委員や警察の方にも参加をお願いしたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に心身の状況を伝え、利用者の部屋には日常生活の様子 や行事参加の写真を貼り、見てもらっている。苦情や意見については要望 受け賜り委員会を発足し、施設全体で取り組む計画であり、『ホーム便り』も 発行する予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭や、文化祭等の行事には行くことのできる人は参加し、地域住民 が席を取ってくれたりしている。また、地域のボランティアや小学生が来てく れ一緒に花を植えたり、施設行事の餅つき大会には地域の人も来てくれて いる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、地域密着型サービスとして職員各々が意見を出し合ってグループホーム独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有しており、ケアの中に活かした取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鶴見港祭りや故郷文化祭等の行事に利用者で行ける人は参加し、地域住民が席を取ってくれたりしている。また、地域のボランティアや小学生が来てくれ一緒に花を植えたり、施設行事の餅つき大会には地域の人も来てくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で項目ごとに分けて記入し、管理者がまとめ、再検討をして作成している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	東南部包括支援センター職員、米水津地区と、鶴見地区の家族代表、区長など地域住民代表や利用者代表が参加し運営状況、推進委員の役割、今後の計画等について活発な意見交換を行っている。また今後は民生児童委員や警察の方にも参加をお願いしたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議でも情報やアドバイスを受けているが、疑問点がある時は介護保険課に相談し指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時に状況報告をし、金銭管理については毎月出納簿を見てもらっている。また各居室に日常の様子を撮った写真を貼っている。体調不良等は電話で報告をしているが、定期的な報告は行っていない。	○	一人ひとりの報告はできているが、日常生活の気付きや連絡事項を定期的に報告するため「ホーム便り」を作成する予定であるので期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、意見や苦情、不満については、「電話受け取り委員会」を発足し、施設全体で取り組むようであるが、今のところ家族の意見は得られておらず、運営に反映させる取り組みとはいえない。	○	家族の意見や苦情が出しやすい工夫としてアンケートや、運営推進会議により意見を出してもらおう等の取り組みが求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の施設内異動は最小限に抑えられ、利用者にダメージのないようにしている。また、異動する場合は事前報告を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修会には積極的に参加し、参加者は報告書を作成し関係資料は必要な人にはコピーを渡しているが、報告会は行っていない。内部研修は随時行っている。	○	研修参加は段階に応じた年間計画を立て、参加者は伝達を徹底して共有をしていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会に加入しているが、開設して日が浅いため利用者の対応が主となりネットワークづくり、交流会は今後の取り組みとなっている。	○	地域の同業者や、他施設と交流の場を持ち事例検討会や勉強会を行い、サービスの質の向上、職員の育成に役立つ取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者と家族が見学に来たり、入居後はホームでの生活に慣れるまで家族の面会回数を多くしてもらったりして、馴染めるような雰囲気作りをしているが、自宅訪問等の取り組みは行われていない。	○	利用希望があったときに家庭を訪問して、利用者や家族の状況を見て徐々に馴染んでいくような取り組みが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と考え、日々の生活の中で教えてもらう事も多い(例、野草の見分け方、日常の挨拶)。何事も一緒に考え、喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で一人ひとりの行動や言葉の中から思いや意向の把握をし、意思疎通が困難な場合は、家族より聞き取りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	メモや申し送りで日ごろの様子を書きとめ、家族からは日ごろの関わりの中で意見を聞き、必要に応じて全職員でケースカンファレンスを行い、介護計画はケアマネージャーが作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回行い、また状態変化や利用者家族の希望に応じて状態に即した計画書の作成をしている。しかし、1ヶ月に1回のモニタリングは行っていない。	○	計画を立て直すのではなく、1ヶ月に1度は変化がなくてもモニタリングを行い現状に即した介護計画の見直しをすることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助や、利用者の家族に代わり自宅に衣類を取りに行ったりと、できる支援は行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、利用者や家族の希望に沿っている。かかりつけ医に往診に来てもらったり専門医(歯科、眼科)との連携はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた方針はできしており、重要事項説明書の中で説明し、対応しうる最大のケアについて話し合い、意思確認書を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについての取り組みはできしており、排泄時の声かけはさりげなく行われ、おむつ交換についてはまわりに配慮した言葉を使っている。また、個人情報保護の秘密保持は徹底した取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者のその日の状態や思いを配慮し、朝寝についても体調に合わせて朝食を遅らせたり、一人ひとりの希望に沿った支援となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で採れた野菜を利用し季節感のある食材で作った食事は利用者、職員が同じものを食べ、後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿い、朝、昼、夜と時間を決めず、好きな時にゆつくと入浴が楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味(折り紙)や菜園の手入れ、洗濯物を干したり、たたんだり、散歩をしたりと一人ひとりの力に応じた支援を聞き取りにより行っている。しかし、利用者の生活歴の記録が少ない。	○	日常生活の中から書きとめ記録に残し、生活歴を活かした役割を見つけ支援していくことが望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	運営者が開設当初から1日1回は外気に触れることを目標にしており、散歩は一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口の施錠は一切なく自由な暮らしができるケアをし、外出がしたい様子があれば、職員が同行し安全に配慮した取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は行っているが、地域住民との協力体制はできていない。また、災害に備えた水、食料については1日分となっている。	○	運営推進会議等で地域住民の協力をお願いし、災害時の備蓄はおおむね3日分の準備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は職員が把握し、特に水分補給については気配りをしており、栄養バランスは管理栄養士により十分に配慮した支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は節句人形や兜が飾られ、光については建物の構造上南向きで西日の入らない工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い部屋にはソファーやテーブルを置いてある。しかし、その人らしく居心地の良い好みのものを活かして工夫された部屋とはなっていない。	○	家族と相談し使い慣れたものや見慣れた物を置くだけではなく、馴染みのものを活かして、その人らしく過ごせるよう個別に応じた部屋作りの工夫が望まれる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 鶴見の太陽
(ユニット名)	(グループホーム 鶴見の太陽)
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市
記入者名 (管理者)	福元 光子
記入日	平成 20年 3月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後ご家族向けのホーム便りを検討していますが、その中で具体的な対応を通して理念を紹介し浸透させていきたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所の人にパンフレットやホーム便りを配布して、日常的な付き合いが深まる様に努力したい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等に施設見学していただき、必要時に活用してもらえるようにしています。老人会等への説明会も実施しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に評価表を配布し、外部評価を実施する意義を説明しました。	○	評価の結果を職員全員に周知し、全員で改善計画を作成し取り組んでいきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等に対しては、積極的に改善していく方向で現在検討中です。	○	活発な意見を頂けるように内容を工夫・充実させサービス向上につなげて行きたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営面等疑問点を市の介護保険係に問い合わせ指導して頂いています。運営推進協議会には市の職員は必ず出席してもらい、貴重な情報やアドバイスを頂いています。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去において、地域福祉権利擁護事業を利用する方が1名おられ、管理者のみ、立ち会いました。	○	勉強会に参加し理解を深め、必要な人には活用できるように支援していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の対応が虐待に通じてないか、お互いに注意を払い防止に努めています。	○	高齢者虐待防止関連法について全職員で勉強する機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、不安や疑問がある場合はいつでも問い合わせを欲しいとお願いしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より日常生活において、意見や不満・苦情を聞いた時には、申し送りノート等で職員全員で情報を共有し、時間をおかずに話し合いを持ち、改善するようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に見えた時を利用して、状況の報告をしていますし、居室内に利用者の写真を貼って日々の暮らしぶり等も解るようにしています。又、利用者が体調不良等で病院受診が必要になった時等は、その都度、電話で報告しています。	○ 今後、ご家族向けの「ホーム便り」を作成する予定です。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご要望受け賜り委員会を開催し、意見、不満・苦情等をしっかり受け止め、施設全体で取り組んでいます。	○ ご要望受け賜り委員会を発足したので、会より出た意見、不満・苦情等をしっかり受け止めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中や勤務の合間、又連絡ノートの活用により意見や提案を聞き、運営に反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベント行事のある時は日勤者を多くする等の工夫をしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	業務の協力体制により離職は抑えられています。職員の施設内移動は必要最小限にし、移動後も利用者への顔出し等を行い、心理的なダメージを防ぐ努力をおこなっています。	○ 今後も利用者本人が馴染みの職員により支援を受けられる様に、移動や離職を必要最小限に抑える努力をしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には積極的に参加しています。又、参加者には報告書を作成してもらい、職員全員が閲覧できるようにしています。	○	参加した研修会の内容を全職員が共有できる様に報告会の開催を検討しています。又、個別の面談も行なって行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの施設見学と交流会を計画していましたが相手方の都合がつかず、実現できなかった。	○	グループホームのネットワーク(市単位)を作り、他のグループホームと勉強会や交流会を持ち、質の向上を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長、副施設長、事務長等に相談できる体制ができており、業務面でも協力や指導を得られています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に現場に来ており、利用者や過ごしたり職員からの相談を受けたりと、業務の把握に努めています。	○	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は職場内で活かせる様に労働環境作りに努めたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で生活歴等把握するように努めています。入所直後は関わりの時間を多く取り、困っている事や不安、希望などの要望を利用者本人から聴き、受け止める努力をしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労等を聞き、家族が当事業所に求めているものを理解し、事業所としての対応を説明させてもらっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている 併設事業所に移られた方には利用者と一緒に遊びに行ったり、反対に遊びに来てもらったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している 日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。意志疎通が困難な利用者には、表情や態度から推し測ったり、家族に聞いたりしています。		
34	<input type="checkbox"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている 利用時や利用後も折に触れ、ご本人や家族から聴き把握に努めています。		
35	<input type="checkbox"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている 一人一人の一日の過ごし方や心身の状態を把握し、その方のできること、できないことの把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している ご本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。必要に応じ、職員全員でケースカンファレンスを行なっています。		
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している 利用者の状態変化や本人・家族の要望に応じて見直しを行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はケアプランにそった記録にと努めている。全員分を一枚に記した日々の記録や申し送りノートは勤務開始前に必ず見るようにして情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる慰問や花植え活動、又もちつき大会時にボランティアに手伝っていただく等、ボランティアと協力しながら支援しています。	○	今後、民生委員さんや警察の方に運営推進会議のメンバーになってもらい意見交換する機会を設けたいと考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向を支援する為に、地域の他のケアマネジャーより情報を得たり、併設施設のケアマネジャーや指導員に家族の相談を受けてもらったりしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して、周辺情報や支援の関する情報交換が活発となり協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている、歯科や眼科等専門医を受診する必要がある時は本人や家族に相談し希望にそうようしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後、必要なケースが出たら認知症専門医の受診を支援したい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期を本事業所で迎えたい希望のある利用者が居ますので、なるべく早い時期に職員全員を対象にターミナルケアの勉強会を開き力量をつけておきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を全職員で心掛けています。気付いた点はお互いに注意・助言し合い改善に努めています。又、個人情報保護の為に秘密保持は徹底して行なっています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に声掛けを行い、無理強いはしないようにしながら利用者本人の希望に添う援助を行なっています。意志表示が困難な利用者には、表情や態度で気持ちをくみ取りながら援助しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら少しでも楽しく過ごせるように柔軟に対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る衣服等は基本的に利用者本人の意向により決定しています。身だしなみの為のお化粧品や、美容院での整髪・毛染め等も利用者本人の要望に応じて対応しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、できる限り利用者と共に心をかけています。時には一緒に栽培した家庭菜園の季節の野菜等を利用したりしています。又、食事に関しては3食とも利用者と職員が同じテーブルで楽しく摂取し、後片付けも一緒に行なっています。	○ 今後は、より一層利用者と共に楽しめる食事やおやつ作りを工夫しながら季節感のあるものをもっと取り入れたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事やおやつの際には、利用者本人の希望に沿ってお茶・コーヒー・紅茶等を用意しています。又、時には近くのスーパーに散歩を兼ねて買い物に出かけ、自分の好みで買い物をしてもらっていますが、買いすぎには注意をしています。	○ 喫煙に関しては全館禁煙ですが、屋外にて柔軟に対応したいし、飲酒に関しても同様に考えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や願望に対しては出来る限りの支援を行っています。	○	家族や友人に対して、手紙を書いたり趣味で作った折り紙細工を送ったりといったような勧誘を試みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外来からエプロン姿のまま、サンダル履きのままといった気軽な雰囲気でも訪問して頂けるよう開かれた第2の自宅を目指しています。	○	訪問の少ない利用者の家族に対して、無理のない範囲で来て頂けるように働きかけを行いたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず車イスでの安全ベルトを使用しなければ危険であると判断された利用者が1名いましたが、最近では精神的にもとても落ち着かれており、安全ベルトを使用しなくても日々の生活が送れるようになりました。	○	施設全体で拘束廃止に向けて委員会が立ち上がり取り組んでいます。今後も、身体拘束を行わないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の活動時間帯は、出入り口の鍵等は一齐施錠していません利用者の様子を観察して、単独で外出しそうな時や、希望があった時は職員が同行しています。安全に配慮した自由な暮らしが出来るようなケアに取り組んでいます。	○	グループホームの玄関の自動ドア、居室の窓の鍵、中庭のウッドデッキに出るドアの鍵についても今後検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜にわたり訪室(巡視)を行い、声掛け、見守り等利用者の所在や様子の確認を行い安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品を置く場所等、状況や変化によって危険を回避できる事は行い、利用者に注意を促しながら一人一人のケースに応じた支援を行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために一人一人に考えられるリスクを常に予測し、行動面や身体面、精神面での日々の変化に柔軟に対応できる知識や情報収集を行なっています。	○	ヒヤリハット委員会を中心に事故防止に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間や急変時の対応マニュアルを作成し、連絡手段や対応手段を整えている。	○ 定期的に訓練を行い、急変や事故発生時に適切な対応ができる様にしておく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な災害訓練は昼夜通じてシュミレーションを行なっています。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑圧感のない自由な暮らしの大切さや日頃からの関係作りが大切だと痛感している事業所としての取り組みはご家族にも十分に説明しています。一人一人の状況の変化に応じてリスクも違ってくるので、家族が面会に来られた際に十分に話し合っています。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	勤務交代の際の口頭による申し送りや申し送りノート等を利用して一人一人の変化や異変は職員全員で情報を共有し対応しています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別にカルテがあり、服薬に関しては職員が常に薬情の閲覧ができ、理解するようにしています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	特に水分摂取には努めています。居室にも水分補給用の飲み物を置いています。又時には、ヨモギ茶、しそジュース等を勧めています。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯を利用している利用者や口腔ケアが自力で完全に行えない利用者には磨き残し等がないかを入念にチェックしています。定期的に義歯洗浄剤を使用して口腔の清潔保持は留意しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が行います。食べる量は日頃の状態を見ている職員が管理しています。水分量に関しては食事やおやつ以外の時間以外にもお茶等を勧めています。利用者によっては、居室に水分補給用のお茶を置いて引用してもらっています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しています。インフルエンザ予防接種は利用者及び職員とも全員実施しました。感染症予防についての勉強会にも積極的に参加し特にノロウイルス対策に力を注いでます。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものや飲み物(特に乳製品)等は冷蔵庫で保管・管理しています。台所は常に片付けて清潔にしています。特に、利用者の居室にある食べ物には十分に注意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の内外には花を飾ったりしています。玄関前の畑に季節の花や野菜を植えて楽しんでいます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音は夜、特に就寝時間帯に支障が無い様に気を付けています。季節感を出す様に行事の飾り付けを利用者と共に行なっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内では共有スペースのソファや畳コーナーで居場所を作っています。又、屋外では中庭のウッドデッキを利用しています。	○	今後はベランダの活用を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	利用者の機能低下に伴い、風呂場の手すりを検討している。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	南側のベランダが活用できるように施設の改造を検討している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員それぞれが得意分野を発揮意志、協力し合いより良い運営をと前向きに頑張っています。又、職員全員が必ず勤務前に利用者一人一人に挨拶を行い、利用者に対して敬愛の気持ちで接している点は利用者及び家族からの信頼に繋がっています。
- ・併設施設の医師及び職員の協力や指導が得られ、複合施設のため、ボランティアの慰問も多く色々なイベントも開催されます。他にも通所リハビリの器具の使用ができる等の利点を活かし、利用者にとっての刺激や楽しみの時間が多く持てるように支援しています。
- ・温暖な気候で地域の中心部に位置し、買い物を楽しむためのスーパーや催事等が行なわれる公共施設が近くにあり、周りは散歩に適した環境です。
- ・中庭はウッドデッキが広々と設計されており、施設内も明るく、全体を一目で見渡せ見守りし易い構造となっています。